

続々 三田で生き残った絶滅危惧種ニッポンバラタナゴ ～二枚貝に卵をうむ魚～

谷本卓弥・松島修・山口達成（ひょうご北摂タナゴ研究会）

【はじめに】

ニッポンバラタナゴ（以下ニッパラ）*Rhodeus ocellatus kurumeus*（コイ科タナゴ亜科）は日本固有種で天然分布は琵琶湖、淀川水系以西の本州と九州北部である。また、東アジア原産の亜種タイリクバラタナゴ（以下タイバラ）*Rhodeus ocellatus ocellatus*が1942年関東に導入され、その後、放流などにより分布を全国に広げた。このタイバラとニッパラは容易に交雑するため、西日本各地に生息していたバラタナゴ類は雑種化し、純系のニッパラは激減した。現在のおもな生息地は九州北部の一部河川と大阪府、奈良県、兵庫県、岡山県、香川県の限られた小規模なため池のみである。そのため、環境省はレッドリストの絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定し、生息する各府県においては県別レッドリストでも同等ランクに指定している。

兵庫県においては神戸市北区のため池数カ所と三田市のため池1カ所のみが現在判明している生息地である。三田市の生息池は個人所有のため池で、鹿よけの防護柵が仕掛けてあるものの外部からの侵入は容易である。また、近年の大雨により池堤の一部が崩れ始めている。三田市のニッパラの生息環境や個体数など保全のために必要な科学的調査は兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授高橋鉄美氏と筆者を含めたグループ「ひょうご北摂タナゴ研究会」が2019年より開始したばかりで、より詳細な調査とそのデータ解析を急ぐ必要がある。

【研究方法】

(1) ニッパラの個体群の生息状況の把握および個体数推定

ため池に定点を設け1回/月、モンドリトラップを沈めてニッパラを捕獲し、個体数と標準体長の測定を行い、また1回/年、標識採捕法を用いて個体数を推定する。

(2) 二枚貝の生息調査およびニッパラの産卵数調査

二枚貝を素手で採取し、個体数や殻長を計測した後、殻に油性インクで識別番号を記し放流する。同時に開口器を用いてニッパラの卵の有無、卵数を計測する。

(3) 食性調査

毎月の調査時に池水と泥を持ち帰り各サンプル中に含まれるプランクトンやベントス等を顕微鏡を用いて同定を行い、定量的に計測した。また、同時に数尾のニッパラ腸管より内容物を採取し、含まれるプランクトンとベントスの同定と定量的計測を行った。

(4) ため池の水質など無機的环境調査

水温・pH・COD・電気伝導度等の水質測定も1回/月実施する。

【結果と考察】

第19回「共生のひろば」（2024年2月）要旨原稿にて記載

⇒ <https://www.hitohaku.jp/publication/book/kyousei19-p186.pdf>

2024年4月以降の調査結果は現在解析中で、本年はタナゴ類について来館者に知ってもらうため、兵庫県内に生息するタナゴ類の生体展示とその説明を行った。

*参考（環境省 <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> より）

絶滅危惧ⅠA類(CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB類(EN)：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU)：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT)：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種



ニッポンバラタナゴ *Rhodeus ocellatus kurumeus*

絶滅危惧 IA 類 (CR) ・兵庫県 RL. : A ランク



タイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus*

要注意外来生物



アブラボテ *Tanakia limbata*

準絶滅危惧 (NT) ・兵庫県 RL. : C ランク



ヤリタナゴ *Tanakia lanceolata*

準絶滅危惧 (NT) ・兵庫県 RL. : B ランク



カネヒラ *Acheilognathus rhombeus*

兵庫県 RL. : B ランク



イチモンジタナゴ *Acheilognathus cyanostigma*

絶滅危惧 IA 類 (CR) ・兵庫県 RL. : 要調査



シロヒレタビラ *Acheilognathus tabira tabira*

絶滅危惧 IB 類 (EN) 兵庫県 RL. : A ランク

●兵庫県に生息するタナゴ類はタイリクバラタナゴ（移入種）以外、すべて環境省・兵庫県の絶滅危惧種、または準絶滅危惧種に指定されています。